

日本都市社会学会ニュース

NO. 91 (2012. 3.31)

発行：日本都市社会学会

事務局：〒480-1198 長久手市茨ヶ廻間 1522-3

(市制移行にともない住所表記が変更になりました)

愛知県立大学大学教育福祉学部 山本かほり研究室内

e-mail : usocio11@ews.aichi-pu.ac.jp

FAX : 0561-64-1107

(振替口座 : 00140-4-703976)

URL : <http://urbansocio.sakura.ne.jp>

歓迎の言葉

水上徹男 (立教大学)

日本都市社会学会第30回記念大会(2012年9月8~9日)という節目の大会を立教大学でお引き受けいただきますこと、大変光栄に存じます。本学は1874年東京築地の外国人居留地に創設され、1918年に池袋に移転しました。140年近くの大学史、また1958年の社会学部開設から半世紀以上を経た歴史の新たなページを、本学会大会の30周年記念とともに刻むことになりました。

未曾有の大災害である昨年の東日本大震災につきましては、学会の皆様もさまざまな活動にかかわっておられ、今回の大会でも関連する報告が行われることと存じます。本学も微力ながら、学内に東日本大震災復興支援本部を設置、福島大学と相互協力・連携協定を締結しました(2011年12月)。震災の際には、帰宅できなくなった方々のための宿泊先として機能、都市型大学としての役割をいくらか果たすことができました。

本学会員は社会学部だけでなく、新座キャンパスの観光学部やコミュニティ福祉学部にもおりますが、今回は社会学部スタッフが中心となって池袋キャンパスで開催いたします。池袋キャンパスには、いくつかの東京都選定歴史的建造物がありますが、大会初日の懇親会もその一つである第一食堂(1918年竣工)で開催します。立教通りから正門に入り、大学の象徴的建造物、時計台のある煉瓦造りの本館(モリス館)のアーチの向こう側に位置しています。

本学大学院社会学研究科は6つの研究領域で構成されておりますが、その一つが「都市」であり、学部・研究科ともに都市社会学には比較的力を注いでまいりました。2007年には、グローバル都市研究所(Rikkyo Institute for Global Urban Studies)を創設して、海外の大学と連携した研究プロジェクトが進行中でございます。

今回の大会が記念大会として、都市社会学の発展に貢献できますよう、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

東日本大震災に関する提言の作成について

震災関係作業部会は今回の事態の重大性に鑑み、研究に取り組む学会の基本姿勢を内外に示すために「東日本大震災復興に向けた都市社会学の取り組むべき課題(提言)」を作成し、昨年12月22日、学会ホームページに掲載しました。ご高覧のほど、よろしくお願いいたします。

日本都市社会学会震災関係作業部会代表 渡戸一郎

日本都市社会学会 第30回大会開催について

1. 期間および主会場

期間 2012年9月8日(土)～9月9日(日)

主会場 立教大学・池袋キャンパス

2. 交通のご案内

(1) 池袋駅までのアクセス

① 新幹線を利用する場合

東京駅から→営団地下鉄丸ノ内線で池袋駅下車, あるいは JR 山手線で池袋駅下車
品川駅から→JR 山手線で池袋駅下車

② 羽田空港を利用する場合

羽田空港国内線ターミナル→京浜急行空港線エアポート急行により品川駅で乗り換え→JR 山手線で池袋駅下車

(2) 池袋駅から立教大学までのアクセス

地下出口C3から出て, 立教通りを直進する。駅から徒歩で10分程度です。

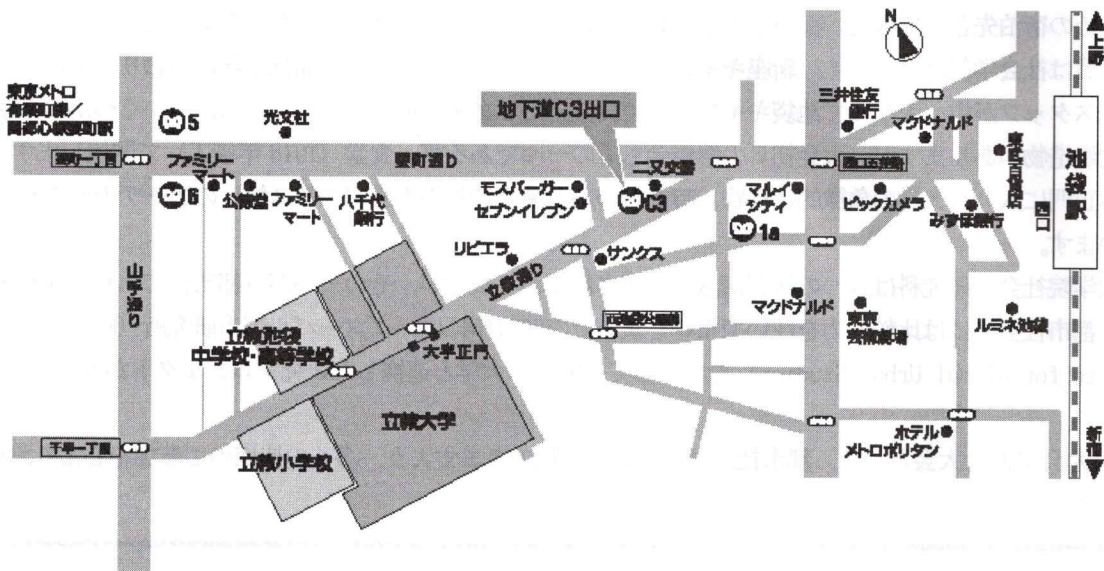


立教大学

池袋キャンパス 〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1 TEL:03-3985-2202 (広報課)

新座キャンパス 〒352-8558 埼玉県新座市北野 1-2-26

池袋キャンパスへのアクセス



2011.04

3. 宿泊のご案内

会場周辺にホテルはたくさんございます。楽天トラベル (<http://travel.rakuten.co.jp/>), じゃらん (<http://www.jalan.net/>) 等, 宿泊サイトを参照の上, ご予約ください。

会員の皆様へのお知らせ

1. 自由報告の募集 ※申し込み方法にご注意ください

第30回大会の自由報告を募集します。どうぞ奮ってお申し込みください。

なお、自由報告の申し込みと同時に報告要旨を提出していただき、7月発行の「学会ニュース」(第92号)に自由報告要旨を掲載することになっております。

自由報告を希望される会員は、下記の要領で、自由報告の申し込みと自由報告要旨の提出を同時に行ってください。

(1) 自由報告の申し込みおよび報告要旨の提出方法(締め切り: 2012年6月3日(日))

次の①～⑤をA4サイズ1枚に記し、保存した文書ファイルを、6月3日(日)午後6時までに学会事務局(usocio11@ews.aichi-pu.ac.jp)宛に、E-mailに添付してお送りください。

①報告タイトル(仮題は不可です)、②報告者氏名・所属(共同報告の場合は登壇者に○をつける)、③報告要旨(50字×20行以内を厳守)、④発表時に使用する機材、⑤連絡先(郵便番号・住所・電話番号・E-mailアドレス)

なお、使用する機材については、会場の都合により不可能となる場合もあります(パワーポイントを使用する場合、PCは持参していただきます)。また、申し込み締め切りを過ぎたものについては、一切受け付けないことになっています。メンテナンスなどのためにサーバーが一時不通になることもありますので、余裕を持って申し込みされるようお願いいたします。

(2) 注意事項(必ずお守りください!)

共同報告の場合、登壇者は日本都市社会学会の会員に限ります。なお、未入会の方が報告を希望される場合は、申し込みを行う前に、入会の手続きをお済ませください。入会手続きについては、学会ホームページをご覧ください。

添付ファイルは、原則としてテキスト形式とします。ただし、Microsoft Windowsを基本ソフトとするパソコンで作成したものに限り、「Microsoft Word(2003, 2007)」形式でも結構です。

- ①「報告の要旨」を会員に事前にお知らせすることを目的としておりますので、図表は入れ込まず、文章のみで作成してください(学会ニュース1ページに2報告の要旨を掲載します)。
- ②この要領に反し、本文が1行50字で20行を超えていたり、図表が入っていたりする場合は、数日以内で訂正をお願いすることになります。また、期限内に訂正されない場合は、報告を放棄されたものとみなしますので、ご注意ください。
- ③なお、大会当日にレジユメ/資料を配布する場合は、各自で別途ご用意ください。

<自由報告申し込みと報告要旨原稿の提出>

締め切り: 6月3日(日)午後6時までに事務局必着

申し込み・報告要旨原稿提出の方法: E-mailによる

申し込み・報告要旨原稿提出先: 学会事務局 usocio11@ews.aichi-pu.ac.jp

2. テーマ報告部会「都市とアート」報告者の募集について

近年、国内外の大都市再開発では、都市間競争、観光戦略、文化政策、創造都市などの文脈で美術館の建設、トリエンナーレやビエンナーレの開催に巨額の資本が投入されています。また地方都市や農村でも、地域の歴史・文化資源の見直し、コミュニティ再生の動きが目立つようになってきました。これらアートによる持続的なまちづくりの担い手として、NPOなども台頭してきています。他方で、「アート」という言葉への無邪気な期待、アート関連の職業従事者が置かれている不安定な労働条件などへの危惧もささやかれています。

そこで、本テーマ報告部会では、都市とアートをめぐるさまざまな動向に着目し、アートを媒介とした新たな都市創造の可能性と問題点について議論するため、報告者を募集しております。とりわけ、「再開発」「創造都市」「景観」「コミュニティ」などをキーワードとした報告が期待されます。社会学はもちろん、周辺領域からの報告も歓迎します（ただし、希望者多数の場合は、自由報告に回っていただくことがあります）。

なお、報告は日本都市社会学会会員に限ります。非会員の方は、報告申し込みと同時に入会手続きを行ってください。

- 申し込み締め切り : 2012年5月14日(月) 18時
 - 報告要旨提出の締め切り : 2012年6月3日(日) 18時
 - 申し込み先 : 日本都市社会学会事務局 (usocio11@ews.aichi-pu.ac.jp)
- ※応募方法等の詳細は、日本都市社会学会のホームページをご覧ください。

(企画委員 二階堂裕子)

3. 理事会報告

2011-12年度第4回理事会が、3月2日(金)午後3時から愛知県立大学サテライトキャンパスにて開催されました。企画委員会報告では、2012年度大会のシンポジウムおよび準備状況について報告がなされました。編集委員会報告では年報30号の査読状況の報告がなされました。また西村学会賞選考委員長より、第7回日本都市社会学奨励賞(若手)の選考が開始されたことが報告されました。また、入会および退会の承認、次回大会および次々回大会について審議されました。

なお、役員選出規定第6条により、松宮朝会員(愛知県立大学)が事務局長に就任されました。

4. 企画委員会報告

<第30回大会>

次回大会は、第30回という節目の大会となります。そこで記念行事として「30周年記念セッション:都市社会学一軌跡と展望」を企画いたしました。都市社会学をリードしてきた方々にご登壇いただき、都市社会学の軌跡と展望について語っていただきます。

また、前回大会(第29回大会)のテーマ部会「犯罪・災害リスクとコミュニティ」を継承し議論を発展させるために、シンポジウムを企画しました。テーマは「現代都市のリスクとグローバル化」です。現在、報告者の人選を行っています。報告者につきましては、次号学会ニュースにてご連絡いたします。

さらに第30回大会におきましては、「都市とアート」をテーマとしたテーマ報告部会を実施いたします。これは、前回大会より新たな試みとして設置された部会であり、社会学はもちろん、周辺領域からの報告も歓迎いたします。

(常任理事・企画委員長 浅川達人)